

製品名: InsP 3-キナーゼ C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12630**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	102kDa

抗原情報

遺伝子名	ITPKC
別名	ITPKC; IP3KC; Inositol-trisphosphate 3-kinase C; Inositol 1; 4,5-trisphosphate 3-kinase C; IP3 3-kinase C; IP3K C; InsP 3-kinase C
遺伝子 ID	80271.0
SwissProt ID	Q96DU7
免疫原	抗血清はヒト IP3KC 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

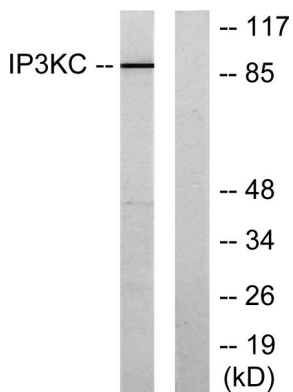
背景

この遺伝子は、イノシトール 1,4,5-トリスリン酸[Ins(1,4,5)P(3)] 3 キナーゼファミリーに属する酵素をコードしており、イノシトール

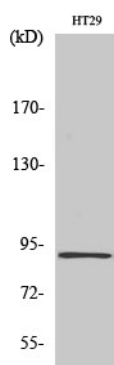
1,4,5-トリスリン酸から 1,3,4,5-テトラキスリン酸へのリン酸化を触媒する。コードされているタンパク質は核と細胞質に局在し、核内移行活性と核外移行活性の両方を有する。この遺伝子の一塩基多型は川崎病と関連している。[RefSeq 提供、2009 年 9 月]、触媒活性: $ATP + 1D\text{-ミオ-イノシトール } 1,4,5\text{-トリスリン酸} = ADP + 1D\text{-ミオ-イノシトール } 1,3,4,5\text{-テトラキスリン酸}$ 。疾患: ITPKC の遺伝子変異は川崎病の感受性に影響を与える[MIM:611775];粘膜皮膚リンパ節症候群または乳児多発動脈炎としても知られています。川崎病は、乳児および小児に発症する急性の自然治癒型の血管炎で、抗生物質に反応しない遷延性の発熱、多形性発疹、口腔粘膜、口唇、舌の紅斑、手掌および足底の紅斑、両側結膜充血、頸部リンパ節腫脹を特徴とします。未治療の場合、15~25%に冠動脈瘤が発生するため、川崎病は先進国の小児における後天性心疾患の主な原因となっています。、酵素調節: カルシウム/カルモジュリンによって活性化されます。高濃度の基質 $Ins(1,2,4)P_3$ によって阻害され、生成物 $Ins(1,3,4,5)P_4$ によってアロステリックに活性化されます。、機能:イノシトール 2,4,5-三リン酸をイノシトール 2,4,5,6-四リン酸にリン酸化できます。、類似性:イノシトールホスホキナーゼ(IPK)ファミリーに属します。、細胞内局在:核と細胞質の間を活発に行き来し、核輸入と核輸出の両方の活性を持ちます。、組織特異性:脾臓、骨格筋、肝臓、胎盤で高く発現し、腎臓と脳で弱く発現します。、

研究分野

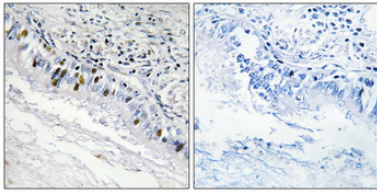
画像データ



IP3KC 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



InsP 3-キナーゼ C ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。